

# 世界史 B (2年) 5/4~5/8の学習内容

教科書では「東ローマ帝国」に進んでいくのですが、話があちこちに飛ぶと、混乱してしまう人もいると思うので、教科書 P137 まで飛んで、引き続き西ヨーロッパを学習していきます。

## (1) 十字軍の始まり (教科書 P137)

4世紀から9世紀頃までの間、西ヨーロッパでは国の力が低下し、様々な勢力が侵入してきました。いくつあげられますか？

ゲルマン人、フン人、イスラーム教徒、アヴァール人、ノルマン人、マジャール人・・・さながら、袋叩きといった様相です。この時期は気候が寒冷で食料が不足し、争いが絶えない時代でした。

しかし、西暦 1000 年頃になって気候が温暖になり始めると、西ヨーロッパはようやく安定期に入ります。

さらに、農業の分野では、「三圃制」という農法や、鉄製の有輪犁 (ゆうりんすき) のような、新しい技術や農具が導入されるようになりました。

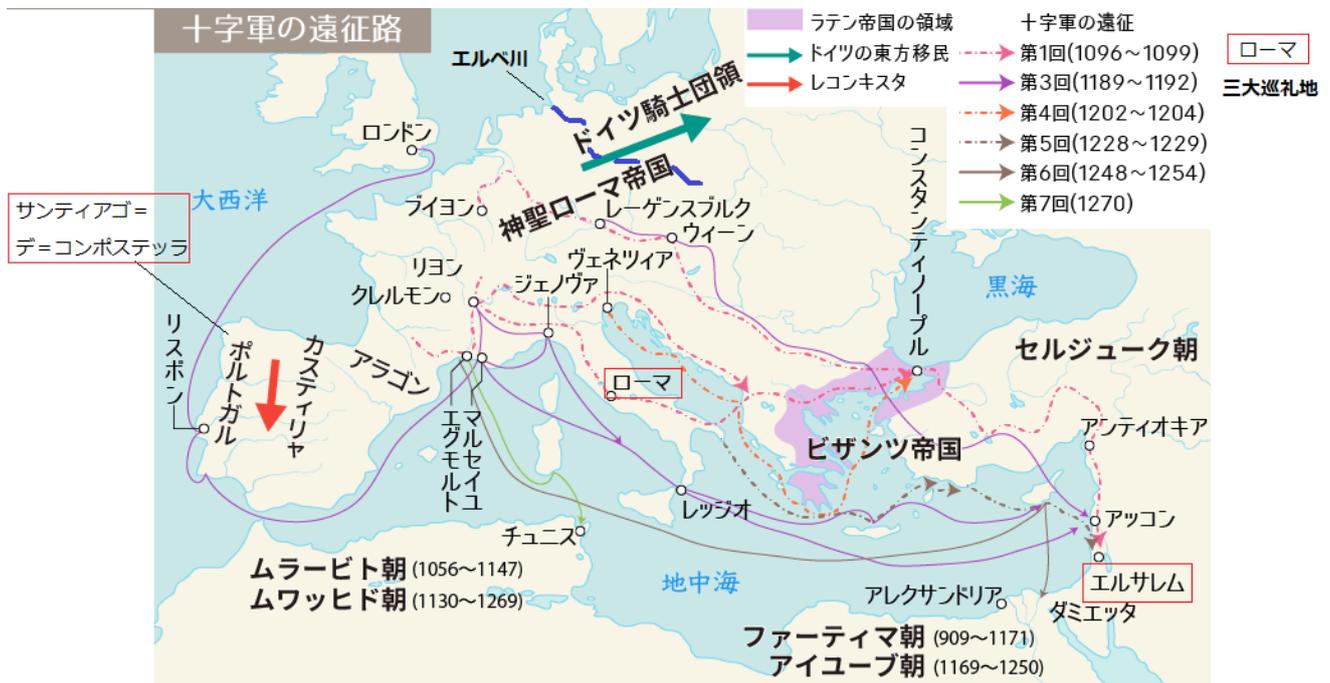


有輪犁は、右上の絵です。鉄の刃をつけた重い農具に、車輪をつけて家畜にひかせることで、今まで耕せなかった固い土壌も砕いて耕地に変えることができるようになったんです。

三圃制の内容は、資料集の P142 にあります。詳しく知りたい人は、メールや Classi で聞いてみてください。

食料が増えると、それまでぎりぎりの水準で生活してきた西ヨーロッパも、ようやく人口が増加するようになっていきました。すると、人の移動や侵略が、活発になっていきます。

これまで攻め込まれる一方だった西ヨーロッパ人が、逆に土地を求めて、他の地域に進出していくことになるのです。主な進出先を、教科書 P137 に沿って、下の地図で見ましょう。



- ① 森の開墾・・・戦争に頼らない平和な拡大で、修道院を中心に進められました。「祈り、働け」の「働け」です。この時代は、別名「大開墾時代」とも呼ばれます。
- ② 国土回復運動・・・イベリア半島における、「北部のキリスト教徒によるイスラーム諸国への侵攻」です。図中の赤い矢印です。1年の時に、イスラームの単元でやりましたね。印刷した人は矢印をマーカーで上書きしてみてください。スペイン語で、「レコンキスタ」と言います。
- ③ 東方植民・・・地図の上の方に、エルベ川という川がありますね。当時、エルベ川から東は、非キリスト教徒のスラヴ系の人々がすんでいたのです。ここへ、「十字軍」に参加経験のあるドイツ人の騎士たち（ドイツ騎士団）が、領土を求めて侵略したことを、「東方植民」と呼びます。後にここに「プロイセン」（プロシア）という国ができる起源になるので、とても重要です。
- ④ 十字軍・・・今回の本命です。解説を以下に続けます。

中世のこの時期になると、西ヨーロッパ全体で、キリスト教への信仰心が高まります。聖地への巡礼も、非常に盛んに行われました。

特に「三大巡礼地」とされた場所が、三つあります。

一つ目は、「ローマ」（イタリア）

二つ目は、「サンティアゴ＝デ＝コンポステラ」（イベリア半島）

※イエスの直弟子である「十二使徒」の一人、ヤコブの墓があると見なされました。

三つ目は、「イエルサレム」

※イエスが十字架にかけられて、処刑された地です。ユダヤ教の聖地でもあります。

この三つの場所は、地図中に赤枠で囲っておきました。確認してみてください。場所も必ず覚えましょう。

では、ここで問題です。イエルサレムは、何という国の領土だったか、わかりますか？

ヒント1 キリスト教の国ではない。

ヒント2 トルコ系騎馬遊牧民の国。

ヒント3 「スルタン」の称号を受ける。

正解は・・・セルジューク朝です。イスラーム教の国ですね。

セルジューク朝は当時非常に強力な王朝で、ビザンツ帝国の領土であるアナトリア半島にも侵攻してきました。

セルジューク朝の勢いに脅威を感じたビザンツ皇帝、アレクシオス1世は、同じキリスト教徒のローマ教皇へ、対セルジューク朝への援軍を依頼します。

時のローマ教皇は、前回もちょっと出てきた、ウルバヌス2世（右）でした。

Go to Jerusalem!

彼はフランスの聖職者が集まったクレルモン宗教会議でこのことを報告し、この機会に、聖地イェルサレムをめざすキリスト教徒の連合軍、「十字軍」を結成することを、提案しました。



彼の提案は熱狂的に受け入れられ、フランスの騎士を中心に、「第一回十字軍」が結成されました。

彼らは、「聖地を奪回すれば、その功績で天国に行ける」と考えていたと思われます。でも、彼らの多くには、もう一つのモチベーションがありました。

それは、「新しい領地を獲得すること」です。この単元の流れをもう一度確認させてください。「人口が増えて、西ヨーロッパ人が新たな領土を求め大規模侵略を始めた」のが、この時代です。

十字軍は西アジアへ侵入していきますが、セルジューク朝はこの時、国内分裂の状態でした。中央アジアの遊牧民は戦闘スペックは高いんですが、「財産を子に分割して相続する」という習慣を持っているため、ばらばらになりやすいんです。

十字軍兵士は、相手が分裂しているというチャンスに恵まれてシリア地方を征服し、そしてついに聖地イェルサレムを占領します。

十字軍は全部で7回（！）あるんですが、これは最初で最後の、成功した十字軍になります。

この時の西ヨーロッパは非常に野蛮で、途中で降伏したムスリムの大量虐殺や、人肉食を行ったことが、記録に残されています。今の西ヨーロッパのイメージと、ずいぶん違いますね。

右の地図を見てください。十字軍の目的を覚えていますか？「聖地イェルサレムの占領」と、「新しい領土の獲得」でしたね。

右の図の、緑（イスラーム勢力）と紫（東ローマ＝ビザンツ帝国）以外は、十字軍に参加した貴族たちが建てた国です。

聖地イェルサレムには、「イェルサレム王国」が建てられました。

ところが、イスラーム教徒にとっても、イェルサレムは聖地です。（預言者ムハンマドが、夢の中でイェルサレムへ飛んで昇天したんだそうです）このままにしておくわけにはいきません。



分裂していくセルジューク朝は頼りにならず、豊かなエジプトを支配するファティマ朝も、当時は求心力を失っていました。

このような状況で、ファティマ朝の宰相がファティマ朝を滅ぼし、新しい王朝を建ててイェルサレム奪還をめざしていきます。この人物の名前と、新しい王朝の名前、わかりますか？

アイユーブ朝のサラディンです。彼は十字軍の最大のライバルとして、歴史に名を残すことになります。今回は、サラディンと十字軍が、どのように戦ったかというところから見ていきましょう。